

1 二重否定その2

<書き下し文・意味>

- (1) **つつしまざるべからず** 言は慎まざる可からず (言葉は慎重に選ばなくてはならない)
- (2) **ざるあたはず** 争はざる能はず (争わないではいられない)
- (3) **ずとなさず** 多からずと為さず (多くないとは言えない)
- (4) **しらざるべからざる** 父母の年は知らざるべからざるなり (父母の年齢は知っていなければならない)
- (5) **つとめざるべからず** 人は自ら勉めざるべからず (人は自分から努力しなくてはならない)

<句法解説>

不[レ]可[レ]不は、二重否定の句法。「～ざるべからず」と読み、「～しなくてはならない」と訳す。

不[レ]能[レ]不は、二重否定の句法。「～ざるあたはず」と読み、「～しないではいられない」と訳す。

不[レ]為[レ]不は、二重否定の句法。「～ずとなさず」と読み、「～しないとは言えない」と訳す。

不[レ]可[レ]不は、二重否定の句法。「～ざるべからず」と読み、「～しなくてはならない」と訳す。

不[レ]可[レ]不は、二重否定の句法。「～ざるべからず」と読み、「～しなくてはならない」と訳す。

2 部分否定

- (6) **かならずしも** 師は必ずしも弟子より賢ならず (先生は、必ずしも門人より賢いわけではない)
- (7) **つねにはあらず** 千里の馬は常に有れども伯楽は常には有らず (一日に千里を走る名馬はいつでもいるが、名馬を見分ける名人はいつでもいるとは限らない)
- (8) **つねにはあぶらをえず** 家貧しくて常には油を得ず (家が貧しかったのでいつも油があるとは限らなかった)
- (9) **またうべからず** 兔復た得べからず (二度と再び兔を捕まえることができない)
- (10) **またきんをこせず** 終身復た琴を鼓せず (生涯もう二度と琴を弾かなかった)

不[二]必～[一]は、部分否定の句法。「かならずしも～ず」と読み、「必ず～とは限らない」と訳す。

不[二]常～[一]は、部分否定の句法。「つねには～ず」と読み、「いつも～とは限らない」と訳す。

不[二]常～[一]は、部分否定の句法。「つねには～ず」と読み、「いつも～とは限らない」と訳す。

不[二]復～[一]は、部分否定の句法。「また～ず」と読み、「二度とは～しない」と訳す。

不[二]復～[一]は、部分否定の句法。「また～ず」と読み、「二度とは～しない」と訳す。



【アプリ版のご紹介】古文・漢文

古文・漢文を学習中の中学生、高校生必見！定期試験とセンター試験に頻出の「古文単語」「古典文法」「漢文」を、完全に無料で学べるアプリが登場！！



【オマケの一題】

中学社会 地理・歴史・公民

大化の改新以来の改革を集約して、701年にできた法律の体系は？

(A) 十七条の憲法 (B) 武家諸法度 (C) 永仁の徳政令 (D) 大宝律令